尚美学園大学総合政策研究紀要　第32号　研究ノート

日本の漫画作品に描かれた考古学者（4）
―2000年代―

Images of Archaeologist in Japanese Comics (4) : the 2000s

櫻井　準也
SAKURAI, Junya

［要旨］

現代のポピュラー・カルチャー（大衆文化）の一つであるわが国の漫画には、多くの作品に考古学者が登場する。その作品数は2000年代になるとさらに増加し、そのジャンルも多岐にわたる。また、わが国で起こった旧石器捏造事件の影響を受けた作品がみられることや大学の考古学研究室が舞台となった作品が登場することも2000年代の特徴である。この時期の考古学者キャラクターについては、サファリ・ルックやインディ・ジョーンズ風の服装の男性、さらにはトレジャーハンターのような風貌や服装の考古学者、少女漫画における美形の若い男性考古学者など実際とは明らかに異なるキャラクターもみられる。その一方で、様々なジャンルで考古学者が登場する漫画作品が増加し、実際の考古学者に近い風貌に描かれたキャラクターが多くみられ、大学の考古学研究室が舞台となる作品が登場しているなどの傾向から、わが国の漫画界において考古学者がより身近な存在になったことが窺える。

キーワード

ポピュラー・カルチャー、漫画、2000年代、考古学者イメージ、旧石器捏造事件、考古学研究室

［Abstract］

The archaeologist appeared in Japanese comics which are one of the contemporary popular cultures at many works. In 2000s, the number of works further increases and the genre is also wide-ranging. And it is also the feature of the 2000s that the existence of the work which was subject to the influence of the Japanese Paleolithic hoax, and the work in which the archaeology laboratory of university became a stage. And about the archaeologist character of this time, there are clearly different characters from actual archaeologist, such as the male archaeologist of Safari look or the Indiana Jones style and also an archaeologist of the looks and cloth like a treasure hunter, and pretty young male archaeologist in girls' comics. Meanwhile, it can observe that the archaeologist became a more familiar existence in Japanese comic community from the tendency for archaeologist characters drawn on the comics work increased in various genres and they looked similar to the

actual archaeologist, and also the work in which an archaeology laboratory of university serves as a stage has appeared.

Keywords:
popular culture, Japanese comics, the 2000s, images of archaeologists, Japanese Paleolithic hoax, archaeology laboratory

はじめに

漫画は映画やアニメなどともに現代のわが国のポピュラー・カルチャー（大衆文化）を構成する重要な要素となっている。わが国の漫画作品において考古学者が登場する作品は1950年代に出現し、初期は手塚治虫や石ノ森章太郎といった漫画界の巨匠たちの作品が中心であり、その後1970年代になるとオカルトブームの影響がみられる漫画作品や少女漫画に考古学者が登場するようになる。さらに1980年代後半になるとギャグ漫画作品やアクション漫画作品、アドベンチャー漫画作品など新たなジャンルや映画『インディ・ジョーンズ』シリーズの影響を受けた作品に考古学者が登場するようになる。これに対し、考古学者が登場する1990年代の漫画作品は基本的に1980年代後半以降にみられる傾向を踏襲しているが、世界の遺跡や考古学者が頻繁に登場する長期連載の青年漫画作品が登場すること、少女漫画で考古学者が登場する作品が増えること、実際の発掘現場が舞台の漫画作品が登場することなどが特徴としてあげられる（櫻井2016・2017）。

本稿では前回に引き続き筆者の管見に触れた2000年以降の考古学者が登場する漫画作品を紹介しながら、その特徴やそこでの考古学者の描かれ方について考察を加えてみたい。

1. 考古学者が登場する2000年代の漫画作品

まず、2000年以前から継続している考古学者が登場する漫画作品をあげてみたい。1970年代から長期にわたって考古学者が主人公の作品を継続的に発表している漫画家の作品として、異端の考古学者稗田礼二郎が主人公である諸星大二郎のオカルト漫画作品「妖怪ハンター」シリーズがあげられる。このうち2000年代の作品では雑誌『小説現代メフィスト』2003～2005年に掲載された「魔障ヶ岳」（諸星2005）がある[(1)]。

次に、1980年代から考古学者が登場する作品を多く発表している星野之宣のSF伝奇漫画作品である『宗像教授異考録』があげられる。このうち2000年以降に考古学者が登場する作品では雑誌『ビックコミック』2005年4・5月号に掲載され、邪馬台国東遷説が登場する「割られた鏡」（星野2006）で大和史学院大学の土師教授、雑誌『ビックコミック』2005年7・8月号に掲載された「織女と牽牛」（星野2006）で広島南大学の結城、雑誌『ビックコミック』2005年10・11月号に掲載され、加茂岩倉遺跡が登場する「神在月」（星野2006）で九州筑後大学の平原美武が登場する。その後も雑誌『ビックコミック』2007年1・2号に掲載され、仮面土偶が登場する「黄泉醜女」（星野2007）で信濃考古学センターの守藤、雑誌『ビックコミック』2008年9月号に掲載され、北海道恵庭市の縄文遺跡が登場する「ちいさきものの手」（星野2008）で札幌の大学教員である堤が登場する。このように宗像教授シリーズでは多くの考古学者が登場するが、それ以外の星野作品で

は、『エル・アラメインの神殿』(星野2003)において第二次大戦中のドイツ軍戦車隊員で大学で考古学を専攻し（リビアで遺跡調査に参加した経験がある)、エジプトで神殿を発見するヴォルフ、雑誌『ネムキ』2004年9月号に掲載された「血反玉」(星野2012）に勾玉（翡翠製）の分析を行っている考古学者が登場する。

さらに2000年代のSF漫画作品では2006年に雑誌『ヤングキングアワーズ』に掲載された大石まさるの「ムーン・シード」(大石2007）の主人公が考古学者のキアラン・ブラックである。彼は人類初の月面出産で生まれた娘フィオナの父親で親の資産を食いつぶす考古学者である。また、近未来SF漫画作品では、雑誌『good！アフタヌーン』2008年1号～2010年10号に連載された虎哉孝征の『カラミティヘッド』(虎哉2010）がある。北アイルランド警察に勤務する考古学好きの刑事であるレーチェル・ブラックが主人公であり、考古学者としてアントリム大学考古学教授のジェレミー・ファーガスが登場する。

これに対し、2000年代に連載されたオカルト漫画作品として、雑誌『ビックコミックスピリッツ』2004年31号～2008年9月11日増刊号に連載された滝沢聖峰の『安部窪教授の理不尽な講義』(滝沢2006・2008）がある。主人公の安部窪 太は、帝都産業大学卒業でケンブリッジ、ニューヨーク、パリ、ボローニャ大学等で学究を重ねた学者で、社会人類学博士号のほか、心理学、動物学、植物学、海洋生物学、生物学、そして考古学で学位を取得している。帝都産業大学で文化人類学を担当しているが大学の遺跡探索隊の一員としてペルーでの発掘調査に参加して独自の仮説を発表し、非難と嘲笑を受けて考古学の世界から身を引いた超常現象の研究で知られる人物である。同様に2000年代に長期連載されたミステリー漫画作品として、雑誌『ビックコミック』2002年11号～2007年13号に連載された魚戸おさむ（画）・東周斎雅楽（作）の『イリヤッド～入矢堂見聞録～』(魚戸2002～2007）がある。アトランティスの財宝がテーマとなっているが、主人公の入矢修造はイギリスで学会追放された考古学者で現在は日本で骨董店の店主となっている。

長期連載という点では1990年代になって主人公が考古学者ではないにも関わらず遺跡や遺物が多く登場する青年漫画作品シリーズがある。ともに美術漫画であるが、その一つが愛 英史（原作)、里見 桂（作画）で雑誌『月刊スーパージャンプ』に長期連載された美術漫画『ゼロ　THE MAN OF THE CREATION』(愛・里見1991～2011）である。主人公は天才贋作者ゼロで2000年以降も考古学者が登場する作品は多い[(2)]。

具体的に考古学者名をあげると、「幻の都市・ビルカバンバ」のベレン大学のペルベージ博士（愛・ 里見2000)、「粘土板X-001―過去からのメッセージ」のオックスフォード大学のウィリアム・ストラボン博士（愛・里見2001)、「神石オンファロス―甦る神託の奇蹟」のミロル・シリダー(愛・里見2001)、「旧石器捏造」のドイツ旧石器文化研究所のエスカーダ副所長、ガーナード所長、ベルリン大学のハインツ教授（愛・里見2001)、「遺産を継ぐ者たち―アレキサンダーの財宝」のグレコ・ローマン博物館のカステーロ教授、ベルンシュタイン教授、オールコック教授（愛・里見2001)、「ICA」のアザレラ人類学研究所のカルロス・ソティーヨ、ペルー大学名誉教授のウルファ（愛・里見2002)、「死者の審判」のパリ大学のクリス・エドモンド助教授、ダングラー助教授（愛・里見2004)、「奴隷」のルボルト博士（愛・里見2004)、「泥炭人殺人事件」のロンドン大学のマルコ・バステン助教授（愛・里見2004)、「失

われたパピルス」のエジプト博物館のエジャージ主任学芸員、カイロ国際大学のダハーシュ教授（愛・里見2004）、「孤高の考古学者」のマサチューセッツ州立大学のテイラー博士、ニューヨーク州立大学のラドルフ・フェルナンド博士（愛・里見2006）、「アレクサンドリアに眠る聖杯伝説」のメイヤー教授（愛・里見2011）である。なお、「旧石器捏造」（愛・里見2001）では、わが国で旧石器捏造があったことを伝えるファックスがドイツに届くシーンがあり、雑誌に掲載される前年にわが国で発覚した旧石器捏造事件が制作の契機となったと考えられる。

同様に考古学者が登場する長期連載青年漫画作品として、1992年から2005年にかけて雑誌『週刊ビッグコミックスピリッツ』に連載された細野不二彦の美術漫画『ギャラリーフェイク』がある（細野1992～2016）。このうち考古学者が登場する2000年代の作品には、雑誌『ビッグコミックスピリッツ』2000年48～50号に掲載された古代メソポタミア文明のニエヴェの図書館に関する物語である「メソポタミアを統べる者」（細野2000）があり、麻布大学オリエント学教授の古橋泰彦、同大の江波教授（故人）、バクダッド大学考古学調査隊のハーラ・ハレドが登場する。さらに雑誌『ビッグコミックスピリッツ』2000年56号に掲載された神代文字ねつ造事件がテーマでありアマチュア考古学者の猪又寛二が登場する「落人たちの宿」（細野2000）があるが、この作品に関しても雑誌掲載の直前に発覚したわが国の旧石器捏造事件が作品制作のヒントになったと思われる。

さらに、アクション漫画作品では雑誌『ビックコミック』2001年1月13日別冊号、2002年6月13日増刊号に掲載された、さいとう・たかをの『ゴルゴ13』シリーズの「スフィンクスの微笑」（さいとう2002）がある。古代エジプトの財宝が盗掘・転売され、テロ組織の資金源になっているという内容であるが、ここではエジプト考古学者の教授とカイロ大学で考古学を研究しているルシアが登場する。なお、その後『ゴルゴ13』シリーズでは、雑誌『ビックコミック』2013年別冊号、2015年増刊号に掲載された「ギザの醜聞」（さいとう2016）において失敗した発掘調査の名誉挽回のためにピラミッドのキャップストーンを捏造するイギリス・ディアム大学准教授のマーチン・ウェザーが登場する。

これに対し、少年漫画でも考古学者が登場する作品は相変わらず多い。まず1990年代前半から考古学者が登場し、漫画作品だけでなくアニメ作品も人気のある探偵漫画作品「金田一少年の事件簿」シリーズでは、雑誌『週刊少年マガジン』2000年37・38合併号～2001年2月号に連載された「金田一少年の決死行」（さとう2005）がある。この作品は香港の地下壕に眠る旧日本軍の財宝をめぐる物語で考古学者として大学教授の狩谷周平が登場する。また、1990年代末に登場したアドベンチャー漫画作品である『ONE PIECE』（尾田1999～2017）は若者に絶大な人気を誇るが、この作品に登場する女性考古学者ニコ・ロビンは現代の若者にとって最も身近な考古学者キャラクターである。ニコ・ロビンはポーネグリフ（歴史の本文）を探す考古学者であるが、初めて登場する1999年の雑誌『週刊少年ジャンプ』52号の「第114話〝進路〟」で彼女は主人公ルフィ達の「麦わら海賊団」の敵である犯罪集団バロックワークスの副社長（最高司令官）ミス・オールサンデーとして登場し、ルフィ達の仲間となるのは雑誌『週刊少年ジャンプ』2002年10号の「第217話〝密航者〟」においてである。また、幼少時代の話が2005年52号の「第391話〝悪魔と呼ばれた少女〟」から2006年10号の

「第398話〝宣戦布告〟」に登場する。また、ロビンの母親のニコ・オルビアも考古学者であり、2006年の雑誌『週刊少年ジャンプ』8号の「第393話〝オルビア〟」から9号の「第394話〝未来へ届くように〟」に登場する。同様にアドベンチャー漫画作品では雑誌『WHAT』1985年6月号～11月号、1986年2・10月号および『空想科学大冒険活劇競作大全集』1987年VOL.2・3に連載され、2000年に単行本が刊行された戦後の日本が舞台である山田章博の『ラストコンチネント』（山田2000）の主人公支倉恭介は地球空洞説を唱える考古学者で日東大学元教授である。

オカルト漫画作品やホラー漫画作品では、まず外薗昌也のオカルト漫画『Dr.モードリッド』（外薗2004）があげられる。アメリカの西部開拓時代が舞台で主人公のモルダート・モードリッドは学会を追放された考古学者という設定であるが、学者というよりアメリカ各地で秘密兵器を使って戦うゴーストハンターである。ホラー漫画作品では、雑誌『月刊少年エース』などに連載された大塚英志（作）・山崎峰水（画）の『黒鷺死体宅配便』（大塚・山崎2002～2014）がある。死体に触るとその死体の声（残留思念）が聞こえる能力を持つ唐津九郎が結成し、死体の望みを聞いて報酬と引き換えに死体を望みの場所に届ける宅配業者の話であり、「明日への合言葉」（大塚・山崎2006）では千代田仏教大学教養課程教授でエジプト考古学者の西村教授が登場する。また、「子供のように～外伝松岡國男妖怪退治」（大塚・山崎2007）では実在の考古学者で東京帝国大学人類学教室の坪井正五郎が登場する。

さらに、ファンタジー漫画作品では、雑誌『週刊少年サンデー』2001年6号～2008年新年4・5合併号に連載された雷句 誠の『金色のガッシュ!!』（雷句2001～200）があり、主人公のガッシュ・ベルを助けた高嶺清磨の父親高嶺清太郎がイギリスの考古学教授である。またファンタジー漫画作品では、雑誌『週刊少年マガジン』2003年25号～2009年45号に連載されたCLAMPの『ツバサ－RESERVoir CHRoNiCLE』（CLAMP 2003～2009）がある。主人公の玖楼国の姫であるサクラと幼馴染の小狼が考古学者で玖楼の遺跡の発掘隊メンバーである（父親も他国の考古学者で発掘中に死亡している）。なお、雑誌『マガジンスペシャル』2014年9～12号、2015年1～12号、2016年1～4号に続編の『ツバサ－RESERVoir CHRoNiCLE―ニライカナイ編』（CLAMP2015・2016）が掲載されている。さらに、人気ゲームが漫画化され雑誌『月刊コミックブレイド』2005年4月号～2007年3月号および雑誌『コミックブレイドZEBEL』vol.1～6に掲載された壱村 仁のファンタジー漫画『TALES OF SYMPHONIA』（壱村2005～2007）では女性考古学者のリフィル先生が登場する。

その他のジャンルの作品としては、雑誌『月刊少年マガジン』2005年10月号から連載されている加藤元浩のミステリー漫画『C.M.B 森羅博物館の事件目録』（加藤2006～2018）がある。この作品には怪奇現象だけでなく遺跡や古代文明が登場するが、主人公の榊森羅が森羅博物館の館長で考古学者、母親の春菜も考古学者とされている。その他の考古学者として雑誌『月刊少年マガジン』2006年4・5月号掲載の「失われたレリーフ」では大英博物館主任研究員のショー・ベントレー、2007年4～7月号掲載の「カノポスの壺」ではカイロ博物館のファリード博士が登場する。次にアクション漫画では、雑誌『週刊少年サンデー』2002年44号～2006年18号に掲載された皆川亮二の『D-LIVE!!』（皆川2003～2006）がある。あらゆる専門のスペシャリストを集

めた人材派遣会社「ASE」のドライバー斑鳩悟が主人公であるが、「Episode24　大いなる遺産」は中東アデル国が舞台であり、東林大学バルア遺跡発掘調査隊の室田 雅、東林大学の海老沼教授、米国・英国共同発掘チーム隊長のマーベラス、隊員のオルセールが登場する。

ラブコメ漫画作品では、雑誌『週刊少年マガジン』1998年47号～2001年48号に連載された赤松 健の『ラブひな』（赤松1999～2002年）がある。主人公で東京大学入学を目指す浪人生浦島景太郎と成瀬川なるをめぐる恋愛物語であり、個性的な東大講師の瀬田という考古学者が登場する。なお、浪人生であった景太郎は三浪して東大に合格したのち瀬田ゼミに所属し、アメリカ留学後に東大の助教授になっている。同じく雑誌『月刊ASUKA』1997年春の号～2011年2月号に連載された杉崎ゆきるのラブコメ漫画作品『D・N・ANGEL』（杉崎1997～2011）の主人公の中学生丹羽大介の父親である丹羽小助が考古学者である。

コメディ漫画作品では、雑誌『月刊コミックビーム』2008年2月号～2013年4月号に連載され実写映画化もされたヤマザキマリの『テルマエ・ロマエ』（ヤマザキ2009～2013）がある。この作品では主人公のルシウスに伊藤温泉で出会った考古学者小達さつきが第18話から登場するが、さつきは東京大学大学院修了の才女で古代ローマ史が専門、ローマでの発掘経験もあるという設定である。ギャグ漫画作品では、2000年に雑誌『アワーズライト』に連載された、おがきちかのギャグ漫画作品『ハニー♡クレイ♡マイハニー』（おがき2002）がある。この作品は中年で独身、考古学研究室勤務の楯宮章と発掘した埴輪が変身した美少女ハニーの奇妙な生活を描いた作品で、他に考古学者として同じ研究室勤務の北野と助教授の千村真理子が登場する。これに対し、1990年代後半から継続している魔法少女漫画作品として雑誌『なかよし』1996年6月号～2000年8月号に連載されたCLAMPの『カードキャプターさくら』（CLAMP 1996～2000）があり、主人公である木之本桜の父親藤隆が塔和大学で考古学を教えている考古学者である。なお、2016（平成28）年より新たなシリーズ（「クリアカード編」）が雑誌『なかよし』に連載されている。

さらに、2000年代には様々なジャンルの少女漫画に多くの考古学者が登場している。このうち、1990年代後半から継続している少女漫画では、雑誌『少女コミック』1995年3号～2002年13号に掲載された篠原千絵の『天は赤い河のほとり』（篠原1995～2002）がある。主人公がヒッタイト帝国にタイムスリップする物語であり、2002年に出版された『天は赤い河のほとり　FAN BOOK～イシュタル文書～』（篠原2002）では、主人公の恋人であった氷室 聡が教授となって皇妃となった主人公についての記載があるイシュタル文書（粘土板）を発掘している。また、雑誌『LaLa』1996年2月号～2005年4月号に連載された津田雅美の恋愛漫画『彼氏彼女の事情』（津田1996～2005）では主人公の同級生佐倉 椿が考古学者であり、椿は世界中の古代遺跡を巡り、エジプトの大学に通ったのちアメリカで大学教授になっている。さらに、雑誌『少女コミックcheese!』1998年12月号～2004年12月号に掲載された北川みゆきの恋愛漫画『罪に濡れたふたり』（北川1996・97）にも考古学者としてT大学の浅田教授が登場する。

これに対して2000年以降に連載、出版された少女漫画では、2000年に雑誌『メロディ』に掲載された波津彬子のファンタジー漫画「闇色の宝石」（波津2008）の主人公ミスタ・ヴィザーズの父親がエジプト考古

学者である（飼っている犬の名前はラムセス一世である）。また、波津作品では他にも2001（平成13）年に出版されたホラー漫画『秋霖の忌』（波津2001）がある。死者との冥婚がテーマの愛と幻想の物語であるが、紅林 司がアメリカの考古学研究室に所属する考古学者である。さらに、雑誌『月刊フラワーズ』2008年6月号～2010年3月号に連載されたファンタジー漫画『女神さまと私』（波津2009・2010）がある。主人公イーディス・オルフォードは考古学嫌いでありながらエジプト神話の女神の化身である猫ライラを育てることになったが、彼女の兄はエジプト考古学者のマーカス・オルフォードであり、同じくエジプト考古学者のヴィンセント・グレイ教授が登場する。このように波津作品には考古学者が登場する作品が多い。

次に、ファンタジー漫画作品では雑誌『ネムキ』2002年1月号に掲載された、かまたきみこの『深海蒐集人』（かまた2009）がある。主人公のダイバーのミミ・ジョーンズが地球の温暖化で海に沈んだ「過去」を引き上げるという内容であり、考古学者のワイルドマン博士や文化財管理部のロビー・ハンソンが登場する。同じくファンタジー漫画作品では雑誌『プリンセスGOLD』2006年11・12月号～2011年10月号に連載された冬木るりかの『アリーズⅡ～蘇る星座宮～』（冬木2007～2011年）があり、主人公の天才ヴァイオリニストであるアリサ・リアーナの父親が考古学者である。また、友人のショウ・レイファンも10歳の時ギリシャに留学し、古代ギリシャ・ローマ考古学を研究しており、アリサの父親と瀬戸内海で調査を実施している。さらに、ギリシャ神話の神々をモチーフとし、『コミックスZERO-SUM増刊WARD』2008・2009年vol.18、No.1～10号に掲載された、あきのファンタジー漫画『オリンポス』（あき2008・2009）にもギリシャで発掘調査をしている実在の考古学者ハインツ（シュリーマン）が登場する。

これに対し、アドベンチャー漫画作品では雑誌『プリンセスGOLD』2002～2007年に連載された岩崎陽子の『浪漫狩り』（岩崎2003～2007）がある。昭和初期が舞台で主人公の猿渡遼太郎は秋津州大学講師でありながら埋蔵金盗掘指南という設定である。また、雑誌『Amie』1997年2月～11月号に連載された芳崎せいむのBL系アドベンチャー漫画『風のゆくえ天のめぐり』（芳崎1997・1998）は、主人公で雑誌記者の津嘉山光広が幼馴染で律正大学助教授（舶載鏡が専門）の上月雅生のアイドルとの熱愛スクープを狙うつもりが、行方不明の鏡片を求めて上月の旅に同行するという考古学色の強い作品である。他にも登場人物として平帝大学考古学科教授の園部靖彦、その孫で専任講師の園部岳邦、そして考古学者の松尾繁が登場する。

オカルト漫画作品では、2005年の雑誌『ネムキ』に掲載された佐藤かおるの『Catalogue Noir』（佐藤2007）の「Part5 デルタ」の主人公が死者の想念を読み取る特殊能力を持つ美術鑑定人ヴィンセンス・アダムス教授であり、国立博物館主幹のインドリィ・ビダルション博士が登場する。また、『ほんとにあった怖い話』2004年～2008年に連載された和気はるかの『教授の孤独な悪夢』（和気2009）は、古生物学者の女性と結婚した考古学教授が霊感に目覚め、その霊体験レポートが『霊感教授マイケル』シリーズとなったもので、実在の考古学者マイケル・スモールウッドが登場する。このように、少女漫画には様々なジャンルで考古学者が登場することがわかる。

また、以前紹介したように1990年代末になるとわが国の発掘現場を舞台にした漫画作品が登場するようになるが（櫻井2017）、

2000年以降では作品の舞台が大学の考古学研究室という作品が登場する（櫻井2015）。その一つが雑誌『Kiss PLUS』2009年5～11月号、2010年1・3～11月号に連載された小野直美の学園漫画『メッシュ!!』（小野2010）である。舞台となった大学のモデルとなったのは関西地方で文化財学科のあるN大学であり、三輪ゼミの三輪教授はS・R氏、一条ゼミの一条教授はS・Y氏という実在の大学教授（考古学者）がモデルとなっている。そのため、研究室や考古学実習室の様子にはリアリティがあり、発掘調査や整理作業の方法もわかりやすく解説されている。また、同様に大学の考古学研究室が舞台となっている作品として、雑誌『月刊コミックブレイドアヴァルス』2008年1月号、2010年6～8月号に連載された野口芽衣の学園漫画『東海レトロスペクティブ』（野口2010）がある。主人公の妹尾飛鳥は実家の宿泊施設で中世の窯跡を発掘に来た中京学園大学文学部歴史学科の釜倉教授と出会って発掘を手伝うことになり、考古学の世界を知るという内容である。こちらも釜倉教授のモデルは愛知県にある大学のF氏という実在の考古学者であり、作者自身がF氏のゼミの出身者であるため、こちらも研究室や発掘現場の描写や登場人物の発言にリアリティがある。

これに対し、雑誌『マガジン・イーノ01～09（月刊少年マガジン）』2009年5月号増刊～2010年9月号増刊に連載された、いとうれいこ学園漫画『オレンジ☆シップ諸平野大学実験考古学ゼミノート』（いとう2010）も考古学の専攻がある大学が舞台である。この作品は実験考古学がテーマになっており、実験考古学を学ぶ諸平野大学の鬼伏部教授のゼミ（オニゼミ）の学生や大学院生が登場するが鬼伏部教授は登場しない。わが国で実験考古学ゼミという設定自体に無理があり違和感のある作品となっているが、この作品を含め2008～2010年という短い時期に考古学研究室が舞台となった学園漫画が複数登場したことは興味深い現象である。

このように考古学者が登場する2000年代の漫画作品の数は相変わらず多い。それらの作品の全体的な傾向は基本的に1990年代と同様であり、わが国の漫画作品に考古学者が違和感なく取り入れられている作品も多いが、考古学研究室が舞台となっている作品が登場するなど従来にはなかった作品もみられることがわかる。

2. 2000年代のわが国の考古学界の動向

1990年代前半にはバブル経済崩壊の影響を直接的には受けなかったものの、1996（平成8）年の約12,000件をピークとしてわが国の一年間の発掘調査件数は急激に減少し一時は6,000件台となった。しかし、発掘調査件数は2000（平成12）年には回復し、その後年間8,000件程度で推移している。また、この時期も全国各地の発掘調査によって多くの成果が得られている。まず、2000（平成12）年には奈良県明日香村で酒船石遺跡の亀形石造物が発見され、長野県中ツ原遺跡から後に国宝に指定される縄文時代後期の仮面土偶が出土した。また、この年の11月には毎日新聞のスクープによって旧石器捏造事件（前期・中期旧石器時代遺跡捏造事件）が発覚している。その後2001（平成13）年には鳥取県青谷上寺地遺跡から弥生人の脳が発見され話題となった。さらに、この年には1983（昭和58）年にファイバースコープによる調査で壁画が発見された奈良県キトラ古墳でデジタルカメラによる石槨内部の撮影が行われた。2003（平成15）年には大阪府の大阪城において大坂冬の陣で徳川方に埋められた外堀の発掘調査が実施され、2004（平成16）年には奈良県法隆寺で最古の壁画片が発見さ

れ、高熱を受けていたことから法隆寺が火災で焼失していた可能性が高まった。また、この年には奈良県キトラ古墳で壁画の劣化に伴って古墳壁画の取り外し作業が実施された。同様に壁画が残っていた奈良県高松塚古墳についても2006（平成18）年に発掘調査が実施され、翌2007（平成19）年には古墳石室の解体が実施された。

このように、2000年代においてもわが国では発掘調査による様々な成果が得られたが、2000年代の幕開けの年である2000（平成12）年に旧石器捏造事件（前期・中期旧石器時代遺跡捏造事件）が発覚したことはわが国の考古学界にとって痛恨の出来事であった。その後の検証の結果、「神の手」（ゴッド・ハンド）と呼ばれた藤村氏の関与した遺跡の価値が失われ、それを引用した教科書を含む書籍や論文が使用できなくなり、関連遺跡の史跡指定が解除された。また、キトラ古墳や高松塚古墳の壁画についても劣化により石室が解体されるという取り返しのつかない結果となったが、これは明らかに国の管理体制の不備である。このように、2000年代は全国各地で地道に発掘調査が行われる一方で、わが国に考古学に対する不信感が広がった時期であるといえる。

3. 2000年代の漫画作品に描かれた考古学者

遺跡や考古学がわが国で身近な存在となってきた1980年代になって考古学者が登場する漫画作品が増加し、そのジャンルも広がってきた。そして、考古学者の描かれ方はそれまでのステレオタイプ化された考古学者だけではなく、実際の考古学者に近いキャラクターも登場するようになった（櫻井2017）。また、少年漫画にインディ・ジョーンズの影響を受けた作品、少女漫画に美形の青年考古学者が登場するようになり、1980年代末に考古学研究者にもファンの多い『MASTERキートン』（勝鹿・浦沢1989〜93）の連載が始まるなど1980年代に登場した新たな考古学者像は1990年代に引き継がれていったが、2000年代もその流れの延長線上にあるといえる[(3)]。

わが国の2000年代の漫画作品に登場する考古学者像について検討を加えると、まず1970年代から長期にわたって継続するシリーズ作品として、異端の考古学者稗田礼二郎が主人公である諸星大二郎のオカルト漫画作品「妖怪ハンター」シリーズがある。2000年代の作品である「魔障ヶ岳」（諸星2005）においても細身で肩までかかる長髪、黒いスーツとネクタイ姿の稗田の独特の風貌は変わっていない。同様に1980年代から継続する星野之宣のSF伝奇漫画作品『宗像教授異考録』には多くの考古学者が登場する。まず、「割られた鏡」（星野2006）に登場する大和史学院大学の土師教授は、やや長髪で精悍な顔つきの男性で記者会見ではワイシャツにセーター・スーツ姿、フィールドではサングラスにシャツ・アウトドアベスト姿である。「織女と牽牛」（星野2006）の広島南大学の結城教授は発掘現場の担当者であるが短髪で眼鏡をかけ、シャツにズボン姿（胸ポケットに携帯電話、ペンや紙が詰め込まれている）の中年男性である。「神在月」（星野2006）では九州筑後大学の平原美武が登場するが、平原はやや頭の禿げたやや大柄で小太りの老人でスーツにベスト・ネクタイ姿である。さらに、「黄泉醜女」（星野2007）の信濃考古学センターの守藤は冬の洞窟遺跡でダウンコートを着て発掘調査をしている中年男性、「ちいさきものの手」（星野2008）の札幌の大学教員の堤は長髪でTシャツにジーンズ姿で額にバンダナ、首にタオルを巻いて発掘をしている青年男性である。

また、『宗像教授異考録』以外の星野作品では、『エル・アラメインの神殿』（星野

2003）に登場する第二次大戦中のドイツ軍戦車隊員で大学で考古学を専攻していたヴォルフは眼鏡をかけ軍服を着て帽子を被り腰に拳銃を下げた若い男性、「血反玉」（星野2012）で勾玉（翡翠製）の分析を実施している考古学者は口髭に顎鬚の太った中年男性で考古学者ではなく分析科学の専門家であると思われる。このように、星野作品では、各作品のストーリーに即した風貌の考古学者キャラクターが登場する。

これに対し、SF漫画作品では大石まさるの「ムーン・シード」（大石2007）の主人公キアラン・ブラックは人類初の月面出産で生まれた娘フィオナの父親で月ロケットの購入などで親の資産を食いつぶすのが仕事という考古学者である。眼鏡をかけスーツにネクタイ姿の優しそうな考古学者であるが、考古学が道楽であるという古くからのイメージが反映されている。また、近未来のSF漫画作品である虎哉孝征の『カラミティヘッド』（虎哉2010）に登場する主人公で北アイルランド警察勤務の考古学好き刑事のレーチェル・ブラックはやや丸顔で長髪に眼鏡をかけ、シャツにジャケットやジャンパーを着た女性、アントリム大学考古学教授のジェレミー・ファーガスはやや長髪でタートルネックのセーターにジャケット姿の男性である。

2000年代に長期連載されたオカルト漫画作品では、滝沢聖峰の『安部窪教授の理不尽な講義』（滝沢2006・2008）の主人公で社会人類学、心理学、動物学、植物学、海洋生物学、生物学、そして考古学で学位を取得し、超常現象を研究している安部窪太は大柄で体格のいい強面の中年男性である。研究室では三つ揃えのスーツにネクタイ姿で髪はオールバック、たまに鼻眼鏡をかけ、遺跡ではサファリ・ハットを被っている。また、学生に対する横暴な態度や理不尽なセリフが目立つ教授である。同様に長期連載のミステリー漫画作品である魚戸おさむ（画）・東周斎雅楽（作）の『イリヤッド～入矢堂見聞録～』（魚戸2002～2007）の主人公の骨董店店主である入矢修造は二重瞼に顎鬚、天然パーマの大柄の青年でTシャツにジャケットあるいはセーター姿であり、研究者の面影はない。

次に、1990年代になると主人公が考古学者ではないにも関わらず遺跡・遺物が多く登場し、それに伴って考古学者も登場する青年漫画作品シリーズがみられる。その一つが愛 英史（原作）、里見 桂（作画）の美術漫画『ゼロ　THE MAN OF THE CREATION』（愛・里見1991～2011）であり、2000年以降の作品にも多くの考古学者が登場する。「幻の都市・ビルカバンバ」（愛英史（作）・里見桂（画）2000）のベレン大学のペルベージ博士は白髪でやや頭が禿げており、顎鬚と口髭を生やした男性でスーツにループタイ姿、「粘土板X-001―過去からのメッセージ」（愛・里見2001）のオックスフォード大学のウィリアム・ストラボン博士は白髪で口髭を生やした男性老人でスーツにネクタイ姿、「神石オンファロス―甦る神託の奇蹟」（愛・里見2001）のミロル・シリダーは、顎鬚と口髭を生やした男性でスーツにネクタイ姿、「旧石器捏造」（愛・里見2001）のドイツ旧石器文化研究所のエスカーダ副所長は、金髪で細面、眼鏡をかけた中年男性で上下のスーツにネクタイ・ベスト姿、ガーナード所長は小太りで禿げ頭、顎鬚を生やし、ネクタイに白衣姿の中年男性、ベルリン大学のハインツ教授は口髭と顎鬚を生やしたスーツにネクタイ姿の中年男性である。なお、発掘現場ではエスカーダ副所長はサファリ・ルックにフード付きのジャンバー姿、ハインツ教授はジャンバーに鍔の小さな帽子姿であり、登場する考古学者は一般的なドイツ人のイメージで描かれている。また、「遺産を継ぐ者た

ち―アレキサンダーの財宝」（愛・里見2001）のグレコ・ローマン博物館のカステーロ教授は短い黒髪でスーツにネクタイ姿の中年男性、オールコック教授は黒髪で顎鬚を生やしスーツにネクタイ姿の男性、スティーブンソン教授は金髪で口髭と顎鬚を生やしスーツにネクタイ姿の男性、ベルンシュタイン教授は金髪でスーツにネクタイ姿の男性である。また、彼らは研究室では白衣を着ている。さらに、「ICA」（愛・里見2002）のペルー大学名誉教授のウルファは口髭を生やしスーツにネクタイ姿の中年男性、これに対して捏造品を造ったペルーのアザレラ人類学研究所のカルロス・ソティーヨは長髪を後ろで束ね顎鬚を生やしており、普段はラフなカラーシャツにスーツ、学会発表ではスーツにネクタイ姿である。「死者の審判」（愛・里見2004）の粘土板を捏造したパリ大学のクリス・エドモンド助教授はやや長髪で顎鬚に眼鏡をかけ研究室では白衣、外ではカラーシャツにジャケットを着た男性、その親友で殺害されたダングラー助教授は口髭を生やしたスーツにネクタイ姿の男性、「奴隷」（愛・里見2004）のルボルト博士は小太りで口髭を生やし眼鏡をかけ、普段はスーツにネクタイ姿で屋外ではジャンパーにサファリ・ハットを被った中年男性、「泥炭人殺人事件」（愛・里見2004）で殺害されたオランダの「泥炭人」として発掘されたロンドン大学のマルコ・バステン助教授はスーツにネクタイ姿の男性、「失われたパピルス」（愛・里見2004）のエジプト博物館のエジャージ主任学芸員はスーツにネクタイ姿の黒人男性、カイロ国際大学のダハーシュ教授は口髭と顎鬚でスーツにネクタイ姿の中年黒人男性、「孤高の考古学者」（愛・里見2006）のマサチューセッツ州立大学のテイラー博士は小太りで禿げ頭、口髭と顎鬚を生やして眼鏡をかけ、サファリ・ルックにインディ・ジョーンズハットを被った中年男性、ニューヨーク州立大学のラドルフ・フェルナンド博士は長髪でスーツにネクタイ姿の男性、「アレクサンドリアに眠る聖杯伝説」（愛・里見2011）のメイヤー教授は養女アディとともに世界中の遺跡を旅していた中年男性で口髭と顎鬚を生やし、普段はスーツにネクタイ姿、エジプトではサファリ・ルックにインディ・ジョーンズハットを被っている。

このように、『ゼロ　THE MAN OF THE CREATION』シリーズ（愛・里見1991～2011）には多くの考古学者が登場するが、その特徴として全員が男性であり、以前の作品と同様に顎鬚と口髭を生やした白人中年男性が多く、眼鏡をかけた考古学者は少ないことがあげられる。また、服装については屋内ではスーツにネクタイあるいはループタイ姿、遺跡や発掘現場ではサファリ・ルックやジャンパー姿というのが定番であるが、インディ・ジョーンズハットを被った考古学者も複数みられた。これに対し、捏造品を製造したペルーのカルロス・ソティーヨは長髪を後ろで束ね顎鬚を生やし、ラフなカラーシャツにスーツ姿であり、他の考古学者とは異なるイメージである。

次に、同じく考古学者が複数登場する長期連載の青年漫画作品である細野不二彦の美術漫画『ギャラリーフェイク』（細野1992～2016）における2000年代の作品に登場する考古学者として、まず「メソポタミアを統べる者」（細野2000）で麻布大学オリエント学教授の古橋泰彦と江波教授（故人）、さらにバクダッド大学考古学調査隊のハーラ・ハレドが登場する。古橋教授はぼさぼさの頭髪に口髭、眼鏡をかけた中年男性、江波教授は細身でやや禿げた頭に無精髭を生やし、サングラスに広島カープの野球帽を被った中年男性であり、二人ともイラクではサファリ・ルックである。バク

ダッド大学のハーラ・ハレドは長髪で眼鏡をかけたイラク人女性であり、服装は遺跡ではヒジャブにサファリ・ルック、室内ではサマーセーターにパンツ姿である。さらに「落人たちの宿」（細野2000）に登場する捏造を行ったアマチュア考古学者の猪又寛二は小太りでやや長髪、泥鰌髭で眼鏡をかけ、セーターにダウンジャケットを着た気の弱そうな中年男性である。

次に、アクション漫画作品では、さいとう・たかをのアクション漫画『ゴルゴ13』シリーズの「スフィンクスの微笑」（さいとう2002）および「ギザの醜聞」（さいとう2016）で考古学者が登場する。このうち「スフィンクスの微笑」ではエジプト考古学者の教授とカイロ大学で考古学を研究しているルシアが登場する。教授は鼻が高く白くなった口髭・顎鬚を生やし、シャツに作業ズボン、ジャケットにサファリ・ハットを被った老人、ルシアはエジプトの発掘チームのサブリーダーで長髪の若いエジプト人女性、普段はパンツにサンダル姿、発掘現場では作業着にスニーカーで鍔付きの帽子を被っている。「ギザの醜聞」（さいとう2016）には「ゴッド・ハンド」と呼ばれているイギリスのディアム大学准教授のマーチン・ウェザーが登場する。イギリスの考古学者一族に生まれた金髪の気の弱い中年男性で発掘調査での失敗の名誉挽回のためにピラミッドのキャップストーンを捏造する。マーチンはエジプトの発掘現場ではサファリ・ルック、大学ではスーツにネクタイ、自宅ではセーターにジャケット姿である。

これに対し、少年漫画では探偵漫画作品「金田一少年の事件簿」シリーズの「金田一少年の決死行」（さとう2005）に大学教授の狩谷周平が登場する。旧日本軍の財宝に取りつかれた狩谷は前髪を垂らした中年男性で考古学者というよりは地下壕に眠る財宝を狙うトレジャーハンターである。次に、アドベンチャー漫画作品である『ONE PIECE』（尾田1999～2017）に登場するニコ・ロビンは作品の初期から長い黒髪でいつも沈着冷静な女性考古学者として描かれているが、2010（平成22）年頃から前髪を分けて黒いサングラスをかけた大人びた姿が目立つようになる。また、2006（平成18）年に登場する母親のニコ・オルビアも考古学者であるが、彼女は白い長髪の女性で当然のことながらロビンに似た風貌である。1985年から1987年にかけて連載され2000年に単行本が刊行されたアドベンチャー漫画作品である山田章博の『ラストコンチネント』（山田2000）では日東大学元教授の支倉恭介博士が登場する。支倉は男前の中年男性で時代設定が戦後であるため家の中では浴衣を着ているが外ではスーツにネクタイ姿である。

さらに、オカルト漫画作品ではアメリカの西部開拓時代が舞台である外薗昌也の『Dr. モードリッド』（外薗2004）の主人公のモルダート・モードリッドが考古学者であるが、モードリッドは長髪でリボンタイにスーツ姿でマントを羽織り、カーボーイハットを被るという時代設定を反映した服装の青年男性である。次に、ホラー漫画作品では大塚英志（作）・山崎峰水（画）『黒鷺死体宅配便』（大塚・山崎2002～2014）の「明日への合言葉」に登場する千代田仏教大学教養課程教授のエジプト考古学者西村教授は、乱れた長髪に眼鏡をかけ、ワイシャツにループタイ姿の中年男性である。発掘調査で借金をしたとされており、ネットオークションでミイラに本物のお墨付きを与えて儲けているという設定である。また、「子供のように～外伝松岡國男妖怪退治」では実在の考古学者である東京帝国大学の坪井正五郎が登場するが、坪井はやや長髪に口髭の中年男性で服装はスーツにベ

スト、蝶ネクタイ姿で実際の坪井正五郎のイメージに近い。

次に、ファンタジー漫画作品では、雷句誠の『金色のガッシュ!!』（雷句2001～2008）の高嶺清磨の父親である高嶺清太郎がイギリスの考古学教授である。やせ型の体形で眼鏡をかけ顎髭を生やし、スーツにループタイ姿の中年男性である。さらに、CLAMPの『ツバサ－RESERVoir CHRoNiCLE』（CLAMP2003～2009）や『ツバサ－RESERVoir CHRoNiCLE―ニライカナイ編』（CLAMP2015・2016）に登場する小狼は美形の青年考古学者であるが、死亡した父親は同じCLAMP作品の『カードキャプターさくら』の父親である木之本藤隆と同じキャラクターである。また、壱村 仁のファンタジー漫画『TALES OF SYMPHONIA』（壱村2005～2007）のリフィル先生はやや長髪の女性考古学者で普段は冷静であるが遺跡をみると興奮するという特異な性格である。

少年漫画ではその他のジャンルにも考古学者が登場する。まず、ミステリー漫画の加藤元浩の『C.M.B 森羅博物館の事件目録』（加藤2006～2018）は主人公の榊森羅が森羅博物館の館長で考古学者という設定であるが、森羅はとても館長とは思えない長髪の少年であり、半袖で襟の高い不思議な上着を着てスキー帽を被っている。「失われたレリーフ」に登場する大英博物館主任研究員のショー・ベントレーは最年少で主任研究員になった人物で長髪に眼鏡をかけ、スーツにネクタイ姿の青年、「カノポスの壺」に登場するカイロ考古学博物館のファリード博士は小太りで口髭を生やし眼鏡をかけ、ワイシャツにネクタイ姿のエジプト人男性である。また、アクション漫画作品では、皆川亮二の『D-LIVE!!』（皆川2003～2006）の「Episode24　大いなる遺産」に東林大学バルア遺跡発掘調査隊の室田 雅、東林大学の海老沼教授、米国・英国共同発掘チーム隊長のマーベラス、隊員のオルセールが登場する。このうち、東林大学バルア遺跡発掘調査隊の室田は長髪でサファリ・ルックの若い女性、東林大学の海老沼教授は眼鏡をかけたサファリ・ルックの中年男性でお揃いの帽子を被っている。また、米国・英国共同発掘チーム隊長のマーベラスは口髭を生やしたサファリ・ルックの中年男性、隊員のオルセールもサファリ・ルックの中年男性であり、遺跡の発掘調査ではサファリ・ルックのイメージが強いことがわかる。

次に、ラブコメ漫画作品では、1998（平成10）年から連載されていた赤松 健の『ラブひな』（赤松1999～2002年）があり、主人公の浦島景太郎が浪人時代に出会った東大講師の瀬田という個性的な考古学者が登場する。瀬田は眼鏡をかけ黒いシャツにネクタイ、サスペンダー付きの黒いズボン、その上に白衣を着て常に煙草を吸っている相当変わった人物である。さらに、杉崎ゆきるのラブコメ漫画作品『D・N・ANGEL』（杉崎1997～2011）の主人公の中学生丹羽大介の父親である丹羽小助が考古学者であるが、小助は髪形や顔つき、服装ともに大介によく似た大介の兄のようであり、考古学者のイメージはまったくない。さらに、コメディ漫画作品では、ヤマザキマリの『テルマエ・ロマエ』（ヤマザキ2009～2013）に登場する小達さつきは東京大学大学院を出てローマで発掘調査に参加した経験もある長髪の若い女性である。ギャグ漫画作品では、おがきちかのギャグ漫画『ハニー♡クレイ♡マイハニー』（おがき2002）に埴輪が変身した美少女ハニーと同居する考古学研究室勤務の楯宮章が登場する。楯宮は乱れた髪に顎髭を生やし、遺跡ではジャンパー姿で野球帽を被った青年男性である。また、同じ考古学研究室勤務の北野は

眼鏡をかけセーターにジャケット姿、助教授の千村真理子はセミロングの髪でシャツにジャケット、スカート姿のお嬢様風の女性である。最後に、魔法少女漫画作品では1990年代後半から連載されているCLAMPの『カードキャプターさくら』（CLAMP 1996～2000）がある。主人公の父親である木之本藤隆が塔和大学で考古学を教えている眼鏡をかけた優しそうな男性で大学ではネクタイにスーツ姿である。

これに対し、少女漫画では、1990年代から継続している作品として篠原千絵の『天は赤い河のほとり』の『天は赤い河のほとり　FAN BOOK～イシュタル文書～』（篠原2002）に登場する氷室教授は口髭・顎鬚を生やし、発掘現場では作業服姿の美形の男性である。また、1998（平成11）年から連載されていた北川みゆきの『罪に濡れたふたり』（北川1999～2004）に登場する明徳院大学学生でイタリア、フォロ・ロマーノ近くの発掘現場でアルバイトをしていた鈴村由貴（主人公の弟）は長髪で美形の若い男性であり、浅田教授は眼鏡をかけた優しそうな男性で研究室ではスーツにネクタイ、白衣を着ている。これに対し、女性考古学者では1996（平成8）年から連載された津田雅美の『彼氏彼女の事情』（津田1996～2005）に登場する佐倉 椿は世界中の古代遺跡を巡り、エジプトの大学に通ったのちアメリカで大学教授になっている。彼女はショートカットで高校時代は比較的大人しそうな女性であるが、成人後は積極的な女性に変貌している。

次に、2000年以降に連載、出版された少女漫画では、波津彬子の作品に考古学者が多く登場する。まず、ファンタジー漫画作品の「闇色の宝石」（波津2008）の主人公の父親でエジプト考古学者のヴィザーズは口髭に眼鏡をかけ、サファリ・ルックの中年男性である。また、ホラー漫画作品の『秋霖の忌』（波津2001）に登場するアメリカの考古学研究室に所属する紅林 司はシャツにカーディガン姿の美形の男性である。さらにファンタジー漫画作品の『女神さまと私』（波津2009・2010）では主人公の兄のエジプト考古学者のマーカス・オルフォードは眼鏡をかけたワイシャツにズボン姿の優しそうな男性、同じくエジプト考古学者のヴィンセント・グレイ教授は、黒髪でネクタイにベスト・スーツ姿の美形の男性である。同じファンタジー漫画作品では、かまたきみこの『深海蒐集人』（かまた2009）に登場する考古学者のワイルドマン博士は口髭に眼鏡をかけ、服装はサファリ・ルックにサファリ・ハットを被った優しそうな中年男性、文化財管理部のロビー・ハンソンは眼鏡をかけネクタイにスーツ姿の青年男性である。さらに、冬木るりかのファンタジー漫画『アリーズⅡ～蘇る星座宮～』（冬木2007～2011年）の主人公の父親が考古学者で長髪で眼鏡をかけ、シャツにジャケット姿の美形の男性であるが、ギリシャに留学して古代ギリシャ・ローマの考古学を研究している友人のショウ・レイファンは長髪にタートルネックセーター姿の美形の青年である。また、ギリシャ神話の神々をモチーフとした、あきのファンタジー漫画『オリンポス』（あき2008・2009）ではハインツ（シュリーマン）が登場するが、ハインツはリボンタイにスーツ姿の少年である。

これに対し、アドベンチャー漫画作品では昭和初期の時代設定である岩崎陽子の『浪漫狩り』（岩崎2003～2007）の主人公である猿渡遼太郎は考古学者ではなく発掘調査技術を有する埋蔵金盗掘指南を職業とするが、長髪にバンダナ、眼鏡をかけ、シャツにベスト・革ズボンという姿はどうみてもトレジャーハンターである。また、芳崎せいむのBL系アドベンチャー漫画『風の

ゆくえ天のめぐり』（芳崎1997・1998）の主人公の幼馴染である律正大学助教授の上月雅生は舶載鏡が専門の考古学者であり、長身で服装はセーターにズボン・コート姿の美形の青年であり、平帝大学考古学科教授の園部靖彦は着物姿の中年男性、その孫で専任講師の園部岳邦は長髪を後ろで束ね眼鏡をかけた美形の青年、さらに松尾繁博士は眼鏡をかけシャツにベスト姿の青年である。これに対し、オカルト漫画作品では佐藤かおるの『Catalogue Noir』（佐藤2007）の「Part5　デルタ」に登場する国立博物館主幹でエジプト考古学のインドリィ・ビダルション博士はズボンにトレーナーやタートルネックセーター姿の一見女性のような若い男性である。さらに、和気はるかの『教授の孤独な悪夢』（和気2009）に登場する実在の考古学者であるマイケル・スモールウッドは長髪で口髭に眼鏡をかけ柄シャツにジャケット姿、調査では作業着姿の優しそうな男性である。

最後に、作品の舞台が大学の考古学研究室である学園漫画作品として小野直美の『メッシュ!!』（小野2010）があり、関西地方で文化財学科のあるN大学が舞台であるが、三輪ゼミの三輪教授はS・R氏、一条ゼミの一条教授はS・Y氏という実在の考古学者である。同様に大学の考古学研究室が舞台となっている野口芽衣の『東海レトロスペクティブ』（野口2010）についても中京学園大学文学部歴史学科の釜倉教授のモデルは愛知県内の大学のF氏という実在の考古学者である。これらの作品は、作者本人が大学で考古学を学んでいたり、綿密な取材をもとに制作されているため、考古学研究室の雰囲気や発掘現場の様子に違和感がない。

4. まとめ

このように、2000年代に入ると考古学者が登場する漫画作品は1990年代と比べさらに増加しており、SF漫画、オカルト漫画、アドベンチャー漫画、アクション漫画、ファンタジー漫画、ラブコメ漫画、コメディ漫画、ギャグ漫画、魔法少女漫画、学園漫画などジャンルも広がっているが、なかでも少女漫画に考古学者が登場する作品が多いことが指摘できる。

これに対し、2000（平成12）年11月に発覚し、テレビドラマ作品やアニメ作品などにみられる旧石器捏造事件（前期・中期旧石器時代遺跡捏造事件）の影響（櫻井2014）が漫画作品にもみられることは注目される。具体的には、ドイツが舞台である愛 英史（原作）、里見 桂（作画）の『ゼロ THE MAN OF THE CREATION』（愛・里見1991～2011）の「旧石器捏造」（愛・里見2001）やアマチュア考古学者の猪又寛二が登場する細野不二彦の『ギャラリーフェイク』（細野1992～2016）の「落人たちの宿」（細野2000）は、わが国の旧石器捏造事件が発覚した直後に発表された作品であり、捏造事件がヒントになって製作されたと思われる作品である。また、『メッシュ!!』（小野2010）や『東海レトロスペクティブ』（野口2010）のような学園漫画で考古学研究室が舞台になっている作品が登場することもこの時期の特徴として指摘することができる。

2000年代の漫画作品に登場する考古学者イメージについては1990年代のものと基本的には変わっていない。しかし、相変わらず学界を追放された異端の考古学者として変人扱いされているキャラクターが目立つ。その風貌や服装については以前のように太った体型で禿げ頭、眼鏡をかけ普段はスーツ姿、発掘調査などでは作業着やサファリ・ルックで登場する中年男性という固定化した考古学者イメージは薄れているもの、相変わらずサファリ・ルックやインデ

ィ・ジョーンズ風の服装の考古学者が登場する。また、現実の考古学者とは明らかにイメージが異なる考古学者像として、長髪にバンダナ・アウトドアベスト姿のトレジャーハンター風の考古学者や少女漫画作品などに登場する美形の若い男性考古学者があげられる。

これに対し、わが国の漫画作品に登場する考古学者は男性優位のイメージであるが、『ONE PIECE』（尾田1999～2017）のニコ・ロビンなど女性考古学者が活躍する作品もみられる。また、以前も指摘したように、1990年代以降になると青年漫画を中心に詳細な調査に基づいて制作される作品が増加し、人物表現も緻密になったこと、さらには全国的な発掘調査の増加によってわが国で考古学者が身近な存在となり、漫画作品に登場する考古学者の風貌や服装が実際の考古学者に近いものが増えている点も指摘することができる。

最後に考古学者が登場する2010年以降の作品についてその一部を紹介してみたい。まず、2012年から2014年にかけて雑誌『ビックコミック』に掲載された『MASTERキートン』の続編である『MASTERキートン　Reマスター』（長崎・浦沢2014）があげられる。ここでは主人公の平賀＝キートン・太一以外にも「マリオンの壁」でパリ第一大学のベコー教授、「マルタ島の女神」でミュンヘン大学考古学調査団のメンバーでもあり国内の大学で講師をしている娘の平賀百合子が登場する。雑誌『月刊コミックブレイド　アヴァルス』に2010年から2013年にかけて連載された多武峰洸（作）・よしゆき（画）のファンタジー漫画『焔の柩』（多武2010～2013）はマヤが舞台であり、家族と訪れた古代遺跡の帰りの飛行機からジャングルに落ちた主人公浅葉唯久の父親が考古学者である。雑誌『FEEL YOUNG』に2012年から連載中で実写映画化もされた町麻衣の学園漫画『アヤメくんののんびり肉食日記』（町2013～2018）はT大学の生物学科の研究室が舞台であるが、主人公である菖蒲瞬の父親綾夫がエジプト考古学者である。雑誌『プリンセスGOLD』に2012年から連載中の二星天のミステリー漫画『京都ゆうても端のほう』（二星2013～2016）は、京都市内のオカルトスポットをまとめた『紫道標帖』を編集することになった京都府公楽課の七木涼太が主人公で、考古学者の門真先生や文化財センターの末富が登場する。さらに、雑誌『別冊少年マガジン』に2012年から連載中の石塚千尋の魔法少女漫画『ふらいんぐうぃっち』（石塚2013～2017）は魔女の木幡真琴が主人公であるが、人類学者・考古学者の猫のケニーが考古学者志望の椎名杏子に考古学を教えるという興味深い作品である。

これに対し、遺跡が中心となってストーリーが展開する作品として雑誌『COMICリュウ』に2013年から連載中の山西正則の学園漫画『放課後！ダンジョン高校』（山西2013～2017）がある。四国の太平洋沖の島にある地下迷路（古代遺跡）の財宝を発掘する弾正高校の生徒をめぐる物語であり、吉村作治氏に似た教授が登場する。これに対して、考古学色の強い少女漫画作品として雑誌『Cocohana』に2012年から2016年にかけて連載された西村しのぶの恋愛漫画『砂とアイリス』（西村2013～2016）がある。化学研究所職員で発掘をこよなく愛する主人公長瀬なぎさの恋愛事情を描いた作品であり、恩師で大学講師の梶谷、青山、大学教授の三木、K大現場責任者の浅田、K大教授の神無月が登場する。

このように、2010年代に入っても考古学者が登場する漫画作品は数多く存在し、様々なジャンルの漫画作品で考古学者が活

躍していることがわかる。

註

（1）雑誌『月刊コミック＠パンチ』2011年1～3号に掲載された井上淳哉の「妖怪ハンター」（井上2011）の原作は諸星大二郎である。

（2）2000年代で考古学者が登場する作品は次の通りである。
第33巻「幻の都市・ビルカバンバ」（初出『月刊スーパージャンプ』2000年9号）、第35巻「粘土板X-001―過去からのメッセージ」（初出『月刊スーパージャンプ』2000年22号）、第35巻「神石オンファロス―甦る神託の奇蹟」（初出『月刊スーパージャンプ』2000年23号）、第36巻「旧石器捏造」（初出『月刊スーパージャンプ』2001年3号）、第37巻「遺産を継ぐ者たち―アレキサンダーの財宝」（初出『月刊スーパージャンプ』2001年7号）、第39巻「ICA」（初出『月刊スーパージャンプ』2001年19号）、第48巻「死者の審判」（初出『月刊スーパージャンプ』2004年2号）、第48巻「奴隷」（初出『月刊スーパージャンプ』2004年6号）、第49巻「泥炭人殺人事件」（初出『月刊スーパージャンプ』2004年8号）、第50巻「失われたパピルス」（初出『月刊スーパージャンプ』2004年16号）、第55巻「孤高の考古学者」（初出『月刊スーパージャンプ』2005年22号）、第69巻「アレクサンドリアに眠る聖杯伝説」（初出『月刊スーパージャンプ』2009年11号）。

（3）これに対し、2000年代になると従来の漫画作品とは異なる独特のキャラクター設定の作品が登場する。世界の国々を擬人化した興味深いコメディ漫画である日丸屋秀和の『ヘタリア』シリーズ（日丸屋2008～2017）もその一つであるが、ここではアメリカの趣味が「考古学・冒険・早撃ち」となっている。

参考文献

愛 英史（作）・里見 桂（画）『ゼロ　THE MAN OF THE CREATION』第1～78巻、集英社、1991～2011年（初出『月刊スーパージャンプ』1990年3月号～2011年21・22合併号）

赤松 健『ラブひな』講談社、1999～2002年（初出『週刊少年マガジン』1998年47号～2001年48号）

あき『オリンポス』一迅社、2008・2009年（初出『コミックスZERO-SUM増刊WARD』2008・2009年vol.18、No.1～10号）

石塚千尋『ふらいんぐうぃっち』講談社、2013～2017年（初出『別冊少年マガジン』2012年9月号～連載中）

壱村　仁『TALES OF SYMPHONIA』マッグガーデン、（初出『月刊コミックブレイド』2005年4月号～2007年3月号、『コミックブレイドZEBEL』vol.1～6）

いとうれいこ『オレンジ☆シップ　諸平野大学実験考古学ゼミノート』講談社、2010年（初出『マガジン・イーノ01～09（月刊少年マガジン）』2009年5月号増刊～2010年9月号増刊）

井上淳哉（原作　諸星大二郎）「妖怪ハンター」『妖怪HUNTER　闇の客人』新潮社、2011年（初出『月刊コミック＠パンチ』2011年1～3号）

岩崎陽子『浪漫狩り』秋田書店、2003～2007年（初出『プリンセスGOLD』2002～2007年）

魚戸おさむ（画）・東周斎雅楽（作）『イリヤッド～入矢堂見聞録～』小学館、2002～2007年（初出『ビックコミック』2002年11号～2007年13号）

大石まさる「ムーン・シード」『環・水惑星年代記』少年画報社、2007年（初出『ヤングキングアワーズ』2006年）

大塚英志（作）・山崎峰水（画）「明日への合言葉」『黒鷺死体宅配便　第5巻』角川書店、2005（初出『Comic新現実』vol.2）
大塚英志（作）・山崎峰水（画）「子供のように～外伝松岡國男妖怪退治（上）～」『黒鷺死体宅配便　第6巻』角川書店、2007（初出『月刊少年エース』2006年11月号）
おがきちか『ハニー♡クレイ♡マイハニー』少年画報社、2002年（初出『アワーズライト』2000年）
尾田栄一郎『ONE PIECE』、集英社、2000～2017年（初出『週刊少年ジャンプ』1997年34号～連載中）
小野直美『メッシュ!!』講談社、2010年（初出『Kiss PLUS』2009年5～11月号、2010年1・3～11月号）
勝鹿北星（作）・浦沢直樹（画）『MASTERキートン』小学館、1989～93年（初出『ビックコミックオリジナル』1988年6月5日号～1994年6月5日号）
かまたきみこ「Ⅳ砂の中の海」・「Ⅸ Figureheads」『深海蒐集人』朝日新聞社、1999～2004年（初出『ネムキ』2002年1月号、2003年11月号）
加藤元浩『C.M.B 森羅博物館の事件目録』講談社、2006～2018（初出『月刊少年マガジン』2005年10月号～連載中）
北川みゆき『罪に濡れたふたり』小学館、1999～2004年（初出『少女コミックcheese!』1998年12月号～2004年12月号）
CLAMP『カードキャプターさくら』講談社、1996～2000年（初出『なかよし』1996年6月号～2000年8月号）
CLAMP『カードキャプターさくら　クリアカード編』講談社、2016～2018年（初出『なかよし』2007年7月号～連載中）
CLAMP『ツバサ－RESERVoir CHRoNiCLE』講談社、2003～2009年（初出『週刊少年マガジン』2003年25号～2009年45号）
CLAMP『ツバサ－RESERVoir CHRoNiCLE―ニライカナイ編』講談社、2015～2016年（初出『マガジンスペシャル』2014年9～12号、2015年1～12号、2016年1～4号）
虎哉孝征『カラミティヘッド』講談社、2010年（初出『good！アフタヌーン』2008年1号～2010年10号）
さいとう・たかを「スフィンクスの微笑」『ゴルゴ13　スフィンクスの微笑』リイド社、2002年（初出『ビックコミック』別冊号、増刊号（2001年1月13日号、2002年6月13日号）
さいとう・たかを「ギザの醜聞」『ゴルゴ13 ギザの醜聞』リイド社、2016年（初出『ビックコミック』別冊号、増刊号、2013年1月13日号、2015年9月13日号）
櫻井準也『考古学とポピュラー・カルチャー』同成社、2014年
櫻井準也「遺跡調査の社会学―漫画と考古学―」『尚美学園大学総合政策研究紀要』第26号、2015年
櫻井準也「日本の漫画作品に描かれた考古学者（1）―1950～70年代―」『尚美学園大学総合政策研究紀要』第28号、2016年
櫻井準也「日本の漫画作品に描かれた考古学者（2）―1980年代―」『尚美学園大学総合政策研究紀要』第29号、2017年
櫻井準也「日本の漫画作品に描かれた考古学者（3）―1990年代―」『尚美学園大学総合政策研究紀要』第30号、2017年
佐藤かおる「Part5　デルタ」『Catalogue Noir』1巻、ソノラマコミックス、2007年（初出『ネムキ』2005年）
さとうふみや（画）・天樹征丸（案）「金田一少年の決死行」『金田一少年の事件簿File26』、講談社、2005年（初出『週刊少年マガジン』2000年37・38合併号～2001年2月号）
篠原千絵『天は赤い河のほとり』小学館、

1995～2002年（初出『少女コミック』1995年3号～2002年13号）
篠原千絵『天は赤い河のほとり　FAN BOOK～イシュタル文書～』小学館、2002年
杉崎ゆきる『D・N・ANGEL』角川書店、1997～2011年（初出『月刊ASUKA』1997年春の号～2011年2月号）
外薗昌也『Dr.モードリッド』幻冬社、2004年
滝沢聖峰『安部窪教授の理不尽な講義』小学館、2006・2008年（初出『ビックコミックスピリッツ』2004年31・36・46号、2005年9月16日・11月14日増刊号、2006年1月26日・3月17日・6月1日・7月22日・9月11日増刊号、2007年2月15日・6月1日・9月15日増刊号、2008年2月15日・6月7日・9月11日増刊号）
多武峰洸（作）・よしゆき（画）『焔の柩』マッグガーデン、2010～2013年（初出『月刊コミックブレイド　アヴァルス』2010年～2013年）
津田雅美『彼氏彼女の事情』白泉社、1996～2005年（初出『Kiss』1996年2月号～2005年4月号）
長崎尚志（作）・浦沢直樹（画）『MASTERキートン　Reマスター』小学館、2014年（初出『ビックコミック』2012年7号～2014年17号）
西村しのぶ『砂とアイリス』集英社、2013～2016年（初出『Cocohana』2012年1月号～2016年1月号）
二星 天『京都ゆうても端のほう』秋田書店、2013～2016年（初出『プリンセスGOLD』2012年8月号～連載中）
野口芽衣『東海レトロスペクティブ』マックガーデン、2010年（初出『月刊コミックブレイドアヴァルス』2012年1月号、2010年6～8月号）
波津彬子『秋霖の忌』白泉社、2001年
波津彬子「闇色の宝石」『姫の恋わずらい』小学館、2008年（初出『メロディ』2000年）
波津彬子『女神さまと私』小学館、2009・2010年（初出『月刊フラワーズ』2008年6月号～2010年3月号）
日丸屋秀和『ヘタリア』幻冬舎、（初出Axis Powers『月刊コミックバーズ』2010年8月号、World☆Stars『週刊少年ジャンプ』2014年9月22日号～休止中）2008～2017年
冬木るりか『アリーズⅡ～蘇る星座宮～』秋田書店、2007～2011年（初出『プリンセスGOLD』2006年11・12月号～2011年10月号）
星野之宣「エル・アラメインの神殿」『エル・アラメインの神殿』幻冬社、2003年
星野之宣「血反玉」『血引きの岩』朝日新聞社、2012年（初出『ネムキ』9月号、2004年）
星野之宣「割られた鏡」『宗像教授異考録第2集』小学館、2006年（初出『ビックコミック』4・5月号、2005年）
星野之宣「織女と牽牛」『宗像教授異考録第2集』小学館、2006年（初出『ビックコミック』7・8月号、2005年）
星野之宣「神在月」『宗像教授異考録　第2集』小学館、2006年（初出『ビックコミック』10・11月号、2005年）
星野之宣「黄泉醜女」『宗像教授異考録　第6集』小学館、2007年（初出『ビックコミック』1・2号、2007年）
星野之宣「ちいさきものの手」『宗像教授異考録　第10集』小学館、2008年（初出『ビックコミック』9月号、2008年）
細野不二彦「メソポタミアを統べる者」『ギャラリーフェイク　第22巻』小学館、2001年（初出『週刊ビックコミックスピリッツ』2000年48～50号）
細野不二彦「落人たちの宿」『ギャラリーフェイク　第23巻』小学館、2001年（初出『週刊ビックコミックスピリッツ』2000年56号）

町麻衣『アヤメくんののんびり肉食日記』祥伝社、2013～2018年（初出『FEEL YOUNG』2012年11号～連載中）
皆川亮二『D-LIVE!!』講談社、2003～2006年（初出『週刊少年サンデー』2002年44号～2006年18号）
諸星大二郎『妖怪ハンター　魔障ヶ岳』講談社、2005年（初出『小説現代メフィスト』2003～2005年）
ヤマザキマリ『テルマエ・ロマエ』エンターブレイン、2009～2013年（初出『月刊コミックビーム』2008年2月号～2013年4月号）
山田章博『ラストコンチネント』日本エディターズ、2000年（初出『WHAT』1985年6月号～11月号、1986年2・10月号、『空想科学大冒険活劇競作大全集』1987年VOL.2・3）
山西正則『放課後！ダンジョン高校』徳間書店、2013～2017年（初出『COMICリュウ』2013年3月号～連載中）
芳崎せいむ『風のゆくえ天のめぐり』小学館、1997・1998年（初出『Amie』1997年2月～11月号）
雷句 誠『金色のガッシュ!!』小学館、2001～2008年（初出『週刊少年サンデー』2001年6号～2008年新年4・5合併号）
和気はるか『教授の孤独な悪夢』ソノラマコミックス、2009年（初出『ほんとにあった怖い話』2004～2008年）